

アカハナワラビ

Botrychium nipponicum Makino

ハナヤスリ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

生育地が稀で、個体数が少ない。(現況:RO)

形態

外見オオハナワラビによく似る。栄養葉(裸葉)は3回羽状深裂、生長した葉には毛がないが葉脈はよく見える。葉の長さ、幅ともに10cm前後で小羽片は尖る。胞子は、オオハナワラビのような瘤が無く平滑である。

国内分布

本州、四国、九州。

県内分布

外浦区、加賀中央区、南加賀区。

生態など

夏から秋まで緑色で、冬は両面赤変する。繁殖は胞子による。胞子葉は11月下旬に枯れ裸葉は翌年4月に枯れる。

生育環境

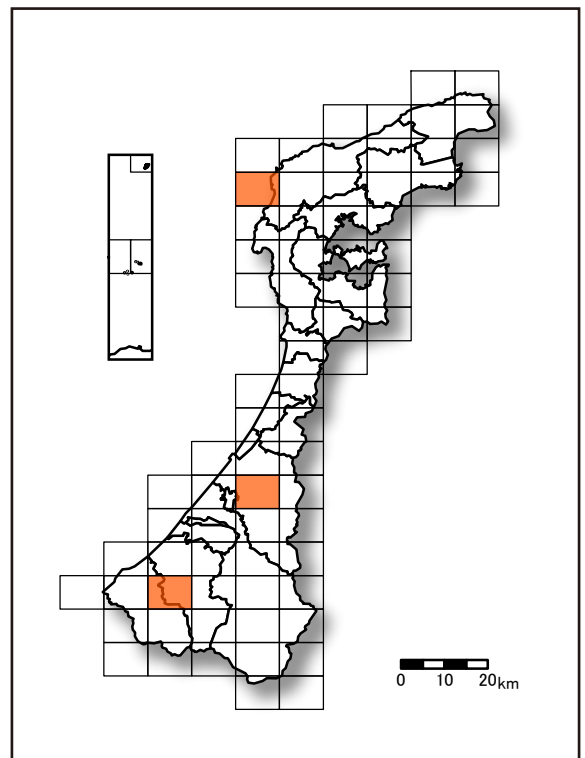
陽当たりの良い樹林下に生育する。

危険要因

園芸採取、土地造成、自然遷移。



林 二良・2007年3月28日・南加賀



県内の分布